

地区防災計画策定に向けて！

令和7年(2025年)

9月 地区防災計画策定に着手／キックオフ会議開催

地区防災計画策定に核として関わるコアメンバーが集まり、顔合わせや今後の方向性について話し合いました。



9月 第1回ワークショップ開催

第1回ワークショップでは、45名の方が参加され、校区エリアのリスクと課題について話し合いました。

多くの課題が出されて、有意義なワークショップとなりました。

(検討結果については、P10に記載)



地区防災計画策定に向けて！

令和7年(2025年)

10月 第2回ワークショップ開催

第2回ワークショップでは、校区住民53名が参加され、1回目に出た課題について考えてもらい、校区として「ルール」の取り決めと、今後校区としてやっていくべきこと「やることリスト」を挙げました。(決定したルールとやることリストについてはP11に記載)



令和8年(2026年)

2月 第3回ワークショップ開催

第3回ワークショップでは、校区住民39名が参加され、2回目のワークショップで出た「やることリスト」の中から優先的にやるべきことを決めました。

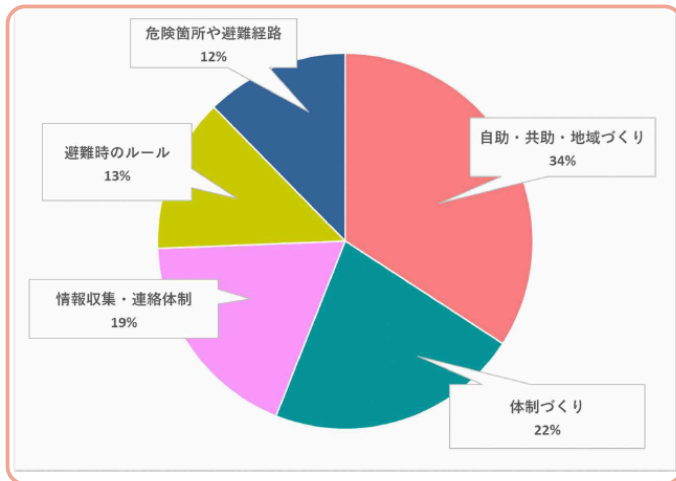
また、校区で作成する防災マップについての検討をしました。



3 校区の課題

第1回目ワークショップで挙げられた校区の課題と危険箇所については以下のとおりです。【図7】～【図9】

出た課題や危険箇所について、校区としてできることを今後検討していく必要があります。



【図7】校区の課題 (大項目)

【図7】はワークショップで出た課題を大きく5つの項目に分けたものです。

その中でも、一番割合を占めていたのは、「自助・共助・地域づくり」、次いで、「体制づくり」という結果でした。

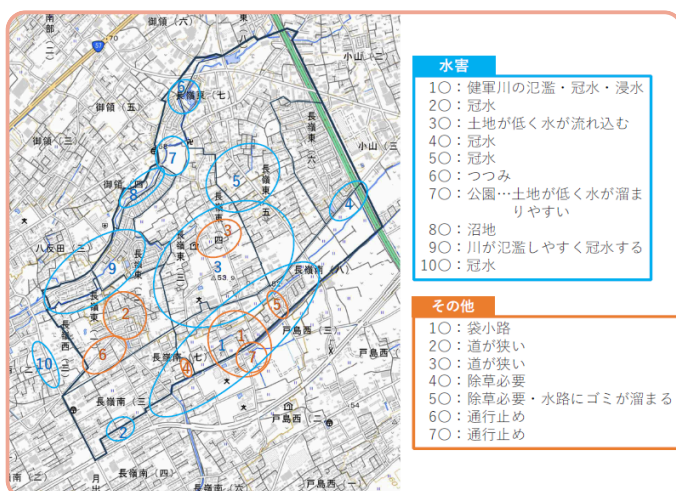
まずは自助、そして、共助ができる関係性づくり「地域づくり」・「体制づくり」が大事だと感じていることが確認できます。

| キーワード (大項目) | 主な内容 (小項目) |
|-------------|--|
| 自助・共助・地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ○要支援者の支援・避難 ○支援者把握・選定 ○一人暮らし ○自助・共助 (防災) 意識の向上 ○地域住民とコミュニケーションを図る ○地域構造が不明確 ○環境の変化 |
| 体制づくり | <ul style="list-style-type: none"> ○避難所運営・ルールの設定 ○避難場所の候補・拡大 ○防災用具・物資事前準備 ○被災時ルールの設定・徹底 ○飲み水・食料の確保 ○避難所不明確 ○公的補助の体制強化 ○避難先課題 ○物資運搬課題 ○早期避難方法の検討・対策 ○外国人の避難体制 ○施設管理・点検 ○行政・企業との連携・課題 |
| 情報収集・連絡体制 | <ul style="list-style-type: none"> ○安否確認や災害時の連絡体制整備 ○状況を把握するのが困難 ○ハザードマップの見える化 ○情報収集手法の整備 ○アプリの活用 ○水位の状況を把握 |
| 避難時のルール | <ul style="list-style-type: none"> ○早期・夜間等の避難行動 ○避難のタイミング ○避難時の課題 |
| 危険箇所や避難経路 | <ul style="list-style-type: none"> ○危険箇所情報 ○地震被害箇所 ○避難経路確認・課題 ○水害箇所 ○地域・地形課題 ○位置・距離 (避難先・避難所) |

【図8】校区の課題 (小項目)

【図8】は校区の課題の小項目をまとめたものです。

要支援者や避難所、情報収集体制についてなど、様々な意見がワークショップで出ていることが確認できます。



【図9】校区の危険箇所

【図9】はワークショップで出た校区の危険箇所についてまとめたものです。

水害の意見が多く出ており、北側の藻器堀川、南側の健軍川沿いでは広く冠水する地域だということがこの図から確認できます。

私たちにできることは？

4 校区のルール

第2回ワークショップで挙げられた校区の「ルール」は【図10】のとおりです。
さらにコアメンバーによる会議を重ね、託麻南校区の「ルール」を2つに絞りました。

| 校区の防災ルール | | | |
|--|--|--|---|
| 自助・共助・地域づくり | 情報収集・連絡体制 | 避難時ルール | 体制づくり |
| <p><自助></p> <ul style="list-style-type: none"> □情報を取りに行き、避難時の対応を 考えておく □食料等の備蓄 □平常時から避難所を決めておく | <p><情報収集></p> <ul style="list-style-type: none"> □県の防災システム・市の河川監視システムの活用（河川の水位等について） □情報アプリの準備 □ハザードマップの活用 | <p><避難方法></p> <ul style="list-style-type: none"> □地震時、車移動禁止 □2階建ての住民は垂直避難 □2町内は水害時垂直避難 □遠方避難する場合をのぞき、避難時は車は使用しない □避難先での安全確保 □避難しやすい場所を選定 | <ul style="list-style-type: none"> □公民館がない町内への支援体制を構築 □避難場所を事前周知できる体制 □定期的な避難訓練の実施 □生活水の確保・情報共有 □災害箇所の周知 □「地区防災の日」を制定 |
| <p><共助></p> <ul style="list-style-type: none"> □家族の避難完了後、要支援者の支援 □要支援者の避難が困難な場合は、まず安否確認 □要支援者の支援や日頃の声かけ □外国人への対応 | <p><連絡体制></p> <ul style="list-style-type: none"> □情報伝達方法の構築・共有 □日常的な情報共有方法の決定 □立ち入り禁止とする危険箇所の周知 □各隣保班長が把握するため、地域住民の連絡体制を構築する | <p><避難タイミング></p> <ul style="list-style-type: none"> □早期避難 □明るい時間帯に避難 □町内ごとに避難するタイミングを決定 | <p>危険箇所や避難経路</p> <ul style="list-style-type: none"> □安全な避難経路情報の周知 □危険箇所の周知 □避難訓練にて避難経路を把握 □避難時の手段を決定 |
| <p><地域づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> □避難するタイミングの周知 □避難経路は各隣保、近隣住民で共有 □ボランティア活動の強化 □家庭内備蓄方法を広報伝達 □地域行事への積極的参加 | | | |

【図10】校区の防災ルール(整理前)

↓ ※【図10】内の赤字を参照し、託麻南校区のルールを以下のように決定

①家庭でも防災に備える

災害から自分の身を守るためには、まずは「備えること」が大切です。
普段から家庭内でも防災について話をする時間を設けましょう。
話し合いの中で、避難先や備蓄品、災害時の行動についてあらかじめ決めておきましょう。



②年に一度「たくなん防災デー」として災害への備えについて考える

1年に1回、災害への備えについて改めて考える場を設け、防災を身近に感じるようになりましょう。
「5 やることリスト」や「6 今後の取り組みについて」を参考に、校区住民で話し合いましょう。

